

平成 27 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016 年 4 月 7 日

言語社会専攻長  
日本語・日本文化専攻長 殿  
To Dean of Studies in Language and Society  
To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア II 講座・准教授
氏名 Name	井上さゆり
専門分野 Academic Field	ビルマ古典音楽・古典文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ビルマ古典歌謡におけるジャンル形成過程
<p>本研究の目的は、ビルマ古典歌謡における伝承と創作の過程を明らかにすることである。書承と口承で音楽が伝承される過程及び創作が為される過程を明らかにすることを目的とし、研究計画に従い以下の作業を行った。</p> <p>(1) 貝葉写本における歌謡集における伝承の内容の分析。(2) 1930-80 年代のビルマ語音楽雑誌を分析し、この時期に「古典歌謡」の枠組みが作られ、実体化していった過程の解明。具体的には雑誌記事内容から、音楽評論が登場し古典音楽についての記述が現れた時期や内容をまとめる。(2) の成果として、ビルマ研究会 (広島大学、2015 年 4 月 18 日) において「ビルマにおける音楽評論-1940~90 年代の音楽雑誌・書籍の分析を通して-」のタイトルで口頭発表を行った。平成 26~29 年度科研費基盤 (C) の計画に従い、8 月から 9 月にかけて 3 週間現地調査を実施し、(3) マンダレーのドー・キンメイに古典歌謡の教授を受けるとともに、古典歌謡の教授実態について記録 (録音、録画) を行った。彼女の夫の故ウー・ミインマウン氏作成の莫大な数の手書きの楽譜の撮影済みの約 3000 枚の画像について画像処理を進めデータベースを作成し、同一曲のヴァリエーションの整理を進めた。以上の研究成果は、“Musical Notations in Burmese Classical Songs’ Oral Tradition: Harpist U Myint Maung’s Challenges in Transcribing Music”のタイトルで申込みをした The Society for Ethnomusicology 年次大会 (2016 年 10 月 10-13 日開催、ワシントン) にて口頭発表予定である。</p> <p>(3) の調査期間の 9 月 5 日のウー・ミインマウンの命日に、ビルマを代表する音楽家達が集って開催される演奏会に報告者も豎琴演奏で参加し、同一曲のヴァリエーションの奏法もあわせて習得した。(4) みんなく共同研究「東南アジアのポピュラーカルチャー」の共同研究員として参加し、ここでは主に 20 世紀以降のビルマ歌謡史とメディアとの関連について研究を進めた。</p> <p>CD「Beauty of Tradition-ミャンマー伝統音楽の旅で見つけた仏教の歌-カインズインシュエ」(エアプレーン、2015 年 7 月)、CD「Beauty of Tradition -ミャンマー伝統音楽の旅で見つけたサインワインの独奏-パンタヤー・セインフラミヤイン」(エアプレーン、2015 年 11 月) のライナーノーツを執筆した。映画「Beauty of Tradition-ミャンマー民族音楽への旅-」(株式会社プロジェクトラム、ポレポレ東中野にて 2015 年 6 月 27 日~7 月 18 日、大阪第七芸術劇場にて 2015 年 11 月 7~13 日上映) の翻訳・字幕を手掛けた。また「コラム 6 ビルマの豎琴」(阿曾村邦昭・奥平龍二編著『ミャンマー国家と民族』2016 年 4 月 20 日出版予定) を執筆した。資料提供を行った NHK・BS プレミアム「ほほえみの国・歌との出会い~平原綾香とめぐる日本&amp;ミャンマー・音楽の絆~」が 2016 年 3 月 26 日に放映された。</p>	